

安全データシート

この安全データシートには、製品（イベルメック注）及び主成分（イベルメクチン）の情報を記載しております。ご混同されること無くご理解下さいますようお願いいたします

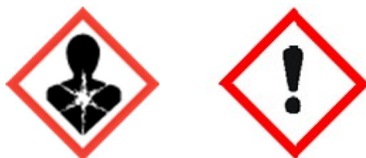
作成 2005年 1月21日
改訂 2024年 1月29日

1 化学品情報及び会社情報

製品名 : イベルメック注
会社名 : フジタ製薬株式会社
住所 : 東京都八王子市栲田町1211
担当部門 : 東京工場 品質管理課
電話番号 : 042-661-5528
FAX番号 : 042-665-3239

2 危険有害性の要約（イベルメック注）

物理化学的危険性 : 引火性液体 区分4
(記載が無い項目は区分に該当しない/分類できない)
健康に対する有害性 : 眼損傷性/眼刺激性 区分2B
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) 区分1 (中枢神経系, 血液系)
区分3 (麻酔作用, 気道刺激性)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露) 区分1 (中枢神経系, 呼吸器系)
(記載が無い項目は区分に該当しない/分類できない)
水生環境急性有害性 : 分類できない
水生環境慢性有害性 : 分類できない
絵表示 :



注意喚起語 : 危険
危険有害性情報 : 可燃性液体
眼刺激
臓器の障害 (中枢神経系, 血液系)
呼吸器への刺激のおそれ
眠気またはめまいのおそれ
長期にわたる, または反復ばく露による臓器の障害 (中枢神経系, 呼吸器系)
注意書き (安全対策) : 熱, 高温のもの, 火花, 裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
取扱後は手をよく洗うこと。眼には触らないこと。
吸入を避けること。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
この製品を使用する時に, 飲食または喫煙をしないこと。
(応急措置) : 火災の場合: 消火するために適切な消火剤を使用すること。
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に, コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合: 医療処置を受けること。
吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し, 呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は, 診察を受けること。
(保管) : 換気の良い場所で保管すること。
施錠して保管すること。
(廃棄) : 内容物及び容器は地方公共団体条例等に従い処分すること。

3 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分 : 混合物

成分及び含有 : イベルメクチン 1.0 g / 100 mL 含有製剤
主成分の化学名 : イベルメクチン (Ivermectin)
主成分の化学式 : C₄₈H₇₄O₁₄
主成分のCAS No. : 70288-86-7

溶剤として、プロピレングリコールを使用している。

4 応急措置 (イベルメック注)

吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移す。必要な場合は医師の診察を受ける。
皮膚に付着した場合 : 直ちに石けんで洗い落とし、多量の水で洗い流す。必要な場合は医師の診察を受ける。
眼に入った場合 : 直ちに多量の水で眼を洗浄し、眼科医の手当を受ける。
飲み込んだ場合 : 使用者等が本剤を誤って摂取した場合は、吐き出させないですぐに医師の診察を受ける。

5 火災時の措置 (イベルメック注)

適切な消火剤 : 水、粉末消火剤、耐アルコール泡消火剤、炭酸ガス消火剤、乾燥砂
使ってはならない消火剤 : 特になし
特有の危険有害性 : 熱分解により有害ガスが発生する恐れがあるので注意する。
特有の消火方法 : 付近の着火源となるものを速やかに取り除き、消火剤を使用して消火する。消火活動は風上から行う。周辺火災の場合、周囲の設備などに散水して冷却し、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移動する。
消火を行う者の保護 : 個人用保護具を着用すること。

6 漏出時の措置 (イベルメック注)

人体に対する注意事項, 保護具及び緊急時措置 : 作業の際には、吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れたりしないように必ず適切な保護具を着用し、風下で作業を行わない。屋内の場合は処理が終わるまで十分に換気を行う。
環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。
封じ込め及び浄化の方法及び機材 : ゴム手袋、保護マスク及び保護眼鏡を着用の上、漏出液をおがくず・ウエス等に吸収させてから空容器に回収する。
回収・中和 : 利用可能な情報はない。
二次災害の防止策 : 付近の着火源となるものを速やかに取り除く。

7 取扱い及び保管上の注意 (イベルメック注)

取扱い上の注意 : 取扱う前には必ず使用上の注意を良く読むこと。本剤の外観又は内容物に異常が認められた場合は使用しないこと。他の薬剤と混合して使用しないこと。イベルメクチンは土と容易に結合し不活化されるが、遊離したイベルメクチンは魚及びある種の水生生物に影響を与えることがあるので、容器及び残りの薬剤は適切に処分すること。
保管上の注意 : 小児の手の届かないところに保管すること。誤用を避け、品質を保持するために、他の容器に入れ替えない。本剤の保管は直射日光及び高温を避けること。火気厳禁。

8 ばく露防止及び保護措置 (イベルメック注)

許容濃度 : 日本産業衛生学会 未設定
米国産業衛生専門家会議 (ACGIH) 未設定
管理濃度 : 作業環境評価基準 未設定
設備対策 : 作業場の空気を汚染しないように、換気を適正に行うことが望ましい。
保護具 : 適切な呼吸器保護具、保護手袋、眼の保護具及び保護衣を着用すること。
衛生対策 : 取扱う前に表示されている事項をよく読むこと。取扱い後はよく手を洗うこと。

9 物理的及び化学的性質 (イベルメック注)

外観 : 無色～微黄色澄明の液体
臭い : 特異なにおいを有する
pH : データなし
融点・凝固点 : データなし

沸点, 初留点及び沸騰範囲	: データなし
可燃性	: データなし
引火点	: 90℃
蒸発速度	: データなし
燃焼又は爆発範囲の上限・下限	: データなし
蒸気圧	: データなし
比重 (相対密度)	: データなし
溶解度	: データなし
n-オクタノール/水分配係数	: データなし
自然発火温度	: データなし
分解温度	: データなし
動粘性率	: データなし
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし

1 0 安定性及び反応性 (イベルメック注)

安定性	: 室温保存においては安定である。
反応性	: 危険性のある反応性はない。
危険有害反応可能性	: データなし
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: データなし
その他	: 可燃性あり

1 1 有害性情報 (イベルメック注)

急性毒性	: 経口 データなし
	: 経皮 データなし
	: 吸入 データなし
皮膚腐食性及び 皮膚刺激性	: データなし
眼に対する重篤な 損傷性又は眼刺激性	: 文献情報から製剤として区分2Bとした。
呼吸器感作性	: データなし
皮膚感作性	: データなし
生殖細胞変異原性	: データなし
発がん性	: データなし
生殖毒性	: データなし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 文献情報から製剤として区分1 (中枢神経系, 血液系), 区分3 (麻酔作用, 気道刺激性) とした。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 文献情報から製剤として区分1 (中枢神経系, 呼吸器系) とした。
誤えん有害性	: データなし

1 2 環境影響情報 (イベルメック注)

生態毒性	: 水生環境急性有害性 データなし
	: 水生環境慢性有害性 データなし
残留性・分解性	: データなし
生体蓄積性	: データなし
土壌中の移動性	: データなし
オゾン層有害性	: データなし

1 3 廃棄上の注意 (イベルメック注)

残余廃棄物	: 残余廃棄物は環境や水系を汚染しないように注意し, 地方公共団体条例等に従い処分すること。
汚染容器及び包装	: 空容器等は環境や水系を汚染しないように注意し, 地方公共団体条例等に従い処分すること。

1 4 輸送上の注意 (イベルメック注)

国内規制 陸上	: 該当しない
海上	: 船舶安全法の規制に従う
航空	: 航空法の規制に従う
その他	: 運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ, 転倒, 落下, 損傷がない

よう積み込み、荷くずれの防止を確実にこなう。

1 5 適用法令（イベルメック注）

医薬品医療機器等法	: 動物用医薬品 指定医薬品
化管法	: 該当なし
毒劇法	: 該当なし
消防法	: 危険物第四類第三石油類（水溶性），危険等級Ⅲ
危険物船舶運送 及び貯蔵規則	: 可燃性液体

1 6 その他の情報

引用文献

第十八改正日本薬局方
職場のあんぜんサイト（厚生労働省）
独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ
化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS) 改訂9版
J I S Z 7 2 5 2 : 2 0 1 9 及び J I S Z 7 2 5 3 : 2 0 1 9
フジタ製薬株式会社 社内資料

※このSDSは改訂日における最新の情報に基づいて作成されておりますが、すべての情報を網羅しているものではありません。新たな情報を入手した場合には予告なく追加または訂正をいたしますので必要の都度最新のSDSをご確認いただけますようお願いいたします。